

平成16年12月10日

記者発表

高梁川水系小田川 ことひきばし 琴弾橋の開通式について

- 水害のない町にまた1歩近づきました。 -

日 時：平成16年12月15日（水）午前10:00～午前11:00

場 所：吉備郡真備町妹地先（琴弾橋南詰付近）



高梁川水系小田川に架かる井の口橋は橋脚が非常に多い構造であり、また猿掛橋は潜水橋であるため、共に洪水時に流水を阻害し氾濫の危険性がありました。

このことから、これまで国土交通省ではこれら2橋を統合した新橋の建設を行ってきました。この度、その統合橋である「琴弾橋」が完成しましたので、開通式を真備町の主催により行うとともに、管理者である真備町への引き渡しを行います。

なお、同日の15:00から一般供用開始いたします。

国土交通省岡山河川事務所

問い合わせ先

国土交通省中国地方整備局 岡山河川事務所

TEL:086-223-5101 副所長 本多 卓志（内線204）

工務課長 古屋 隆男（内線311）

真備町 建設産業部

TEL: 0866-98-1111 建設課長 渡辺 正美

琴弾橋の概要

高梁川水系の支川小田川は、水源を広島県神石郡に発し、吉備郡真備町において高梁川(河口より13.4km上流地点)に合流しています。

琴弾橋の下流に位置する井の口橋(いのくちばし、写真-1)は、橋長213mに対して径間数が25径間となっており河川管理上問題となっていました。また琴弾橋の上流に位置する猿掛橋(さるかけばし、写真-2)は、洪水時には水没する潜水橋であるため、洪水の流れを大きく障害し堰上げするなど氾濫の危険性があり、小田川の流下能力を低下させていました。

このようなことから水害のない町づくりを目指して、井の口橋・猿掛橋の2橋を統合する「琴弾橋」の建設を平成13年から行ってきました。そしてこのたび橋梁及びその取付道路が完成しましたので、その開通式を真備町の主催で行い、管理者である真備町に引き渡すこととなりました。これにより真備町内の橋梁改築はすべて完了したことになります。

なお、井の口橋および猿掛橋は今年度中に撤去する予定です。

総事業費

約10億円

上部構造

琴弾橋の上部工には耐候性鋼材を用い、塗装の塗替え等を必要としない形式とすることで、維持管理面を踏まえてコストを考慮した橋梁となっています。

「琴弾橋」の名前の由来

この周辺は、奈良時代に遣唐使として海をわたりさまざまな学問をおさめた、吉備真備公ゆかりの地です。その吉備真備公は晩年故郷の真備町に戻り、この橋の上流にある巨岩の上で琴を弾きながら余生を過ごしたと言われていています。毎年仲秋の名月の夜、公をしのんでここで琴を弾く「^{だんきんさい}弾琴祭」が行われています。そのような地元の方々からの公募により「琴弾橋」と名付けられました。

親柱のデザイン

この橋の親柱には、「吉備真備公」や「琴」など真備町にちなんだパネルが取り付けられています。また、親柱に取り付けてある橋名板の文字は、真備町内の^{くれせ}呉妹小学校の児童より公募したものを採用しています。

【琴弾橋開通式典会場案内図】

「位置図」



写真 - 1 井の口橋



写真 - 2 猿掛橋

